

5月特大号

5 2012
May



放射能「健康デマ」を嗤う 橋下は結局、潰れる

問答 薬弱
久保絰之 堤 堯

「皇統紊乱」の後世への禍根

深澤成壽

被災者が語る政治災害

緊急座談会

櫻井よしこ

虐殺を認めた「共同研究」徹底批判
河村市長を批判する大新聞の大罪
事件の虚構は簡単に立証できる
「証拠写真」はすべてデッチ上げだ！
誰が「南京大虐殺」を捏造したか4
新聞が報じたその日の南京

クラブA大特集

西尾幹二
山際澄夫
富澤繁信
溝口郁夫
古荘光一

総力大特集 南京大虐殺は捏造だ ガンバレ河村市長！

中国の「沖縄占領憲法」 二大スクープ！ 沖縄「集団自決写真」の嘘

仲村 覚
鴨野 守

中、韓、露に

山本皓一

カメラマン・作家

新藤義孝

衆議院議員

領土を盗られるな！

撮影・佐藤英明

十五年ぶりの洋上視察

山本 一月二十日深夜、石垣島の港

を出港し、約七時間かけて尖閣諸島・魚釣島の洋上視察に行ってきた。海がかなり荒れていましたね。

新藤 あまりに揺

れが激しくて酔っている暇もありませんでした(笑)。

風の時期だと聞か

されて安心して

たのですが、出港

前に海保の臨検を

受けた時に「あな

たは海に強いんで

すか」と聞かれた。「いや、船にはあまり乗ったことはありません。どうしてですか?」「今日は荒れますよ」と(笑)。

山本 船上で拝見したら顔色が真っ

青でしたが、さすが硫黄島指揮官・

栗林中将のお孫さんだけあって、泣

きごと一つ言わずに立派だなど思っ

ていました。

新藤 いや、実はあの時、波に煽ら

れ、舳先にいた私は空中に飛ばされ

て、船に叩きつけられたんです。そ

の時に腰を強打しまして……。骨が





折れたかと思ったんですが、ちょうど腰骨とわき腹の間に柱が入ったので、折れずに済んだ(笑)。

しかし、「痛い」と言うと一緒に行ってってくれた方を心配させてしまうし、「そんなに大変な場所なのか、やっぱ行くのは大変なんだ」と思われても困るので、我慢していたんです。やせ我慢で耐えられる範囲でしたから。

山本 そうだったのですか! その直後、頑張っただけ釣りもやりました

と思いますよ。地元の漁師たちも、やっとな国會議員がやって来て、実際に現場を見てくれたと言って喜んでいました。

新藤 戦後、国會議員として島を洋上視察したのは、私が二人目。西村眞悟さん以来、十五年ぶりです。もっと早く行けばよかったのですが……。実際に現場に行ってみると、灯台の光が小さいけれども、「この島を守っている」という感じがして、極めて神々しかった。

ね。まさに「入れ食い」状態でした。

新藤 この魚がまた、大きくて身が締まっっていて、美味いんですよ!

山本 「尖閣ブランド」として売り出せば人気が出る

山本 あの光景にはジーンときましたね。それにしても、今回の視察は政府からストップがかかったり、邪魔が入ったりしませんでしたか。

新藤 一切ありませんでした。事前に政府関係者を呼んで自分の今回の行動について確認しましたが、まったく問題ないとのことでした。海保に対し適切な手続きをとれば、この海域に行くことは誰でも可能であることが証明されたと思います。私が国會議員だから特別の手続きをしたわけではないのです。

そもそも私は、委員長を務める決算・行政監視委員会として、島の賃借料や灯台の維持管理のために、少なくとも年間二千五百万円もの予算が付いている尖閣諸島に対し、どのような行政が行われているのかを国政調査権に基づき視察すべき、と提案しています。しかし現在のところ



しんどう よしたか

1958年、埼玉県川口市生まれ、明治大学卒業。1996年、38歳で衆議院議員初当選（現在4期目）。自民党埼玉県連会長。安倍改造内閣・福田内閣で経済産業副大臣。小泉内閣で、総務大臣政務官、外務大臣政務官を歴任。自民党・国防部会長、商工部会長代理、総務会副会長等を歴任。現在は衆議院決算行政監視委員長、党領土特命委員長代理、自民党ネットサポーターズクラブ（J-NSC）初代代表。

国会協議が整わず、上陸は許可され

ておりません。私は国会議員として、

法手続きを無視した行動はとりたく

ありませんから、今回は洋上視察を

行うことにしたのです。

私の持論は、「尖閣を無人島から有

人島にすべきだ」ということ。現在は

日本が領有権を持ち実効支配してい

ながら、実際には経済活動をしてお

らず、無人で誰も住んでいない。設

備も小さな灯台以外は設置されてい

ません。石垣から漁に出るにしても、

尖閣周辺の正確な気象はわかりませ

んし、海が荒れても避難する場所が

のでしょうか。

尖閣付近は日本の漁場だ！

山本 現状で石垣の漁師たちが尖閣

付近まで漁に出るのは、かなりハー

ドルが高い。しかし戦前、古賀辰四

郎さんたちが尖閣でカツオ漁をし、

鰹節工場を経営して暮らしていた頃

は、二百人もの人々が暮らしていま

した。昭和五十三年までの漁業水揚

げ高は十五億円と言われています

が、中国漁船の妨害などで、いまは

ほとんどゼロになってしまった。

新藤 あそこはいい漁場なんです

ありません。島
との無線も途中
で切れてしまひ
ます。船は孤立
してしまふので
す。もし、船が

故障したり遭難
したらどうする

よ。だから行政が支援して、経済活
動を行える状態にする。実際に使っ
ている、というところが大事なので
す。日本の一般国民が平和な経済活
動を行っているところに、どこの国
の軍隊が来られますか。

漁師の方々が安心して漁に出られ
るよう、尖閣に避難港や気象観測所、
電波の中継管理所を作らなければな
りません。離島の振興と地域経済の
活性化のために、島に支援施設を整
備し、管理のために人が常駐すれば
いいんです。尖閣へ漁に行く船への
燃料代補助などを行うことも視野に
入れています。

山本 石垣の漁船は四トンから五ト

ン。その小さな船で、あの荒波のな

かで漁をするのは相当、無理がある。

石垣の漁民が共同で三十トンクラス

の船を用意できれば、経済活動とし

て成り立ちます。漁協単位で持てる

ように、国が特別基金の優遇などは

できないのですか。

新藤 そういふ法律を作るために、も、立法府としては、尖閣の島や周辺の海を实地調査する必要がある。すでに自民党は、領土特命委員会で島に上陸して实地調査を行うべきとの決議を行っております。このことは、次期総選挙の自民党公約に入ることになっています。

それに、漁師の方々が活動されることは、経済だけでなく国防にも直結します。長崎・五島列島の福江島に行ったときに、城を見できました。



やまもと こういち

1943年、香川県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒。小学館・週刊ポスト編集部勤務などを経て、フリーの写真家に。『来た、見た、撮った!北朝鮮』(集英社インターナショナル)で2004年、講談社出版文化賞写真賞受賞。著書に『日本人が行けない「日本領土」』(小学館)、『国境の島が危ない!』(飛鳥新社)など多数。日本の国境の島全てに上陸した唯一の写真家。

五島藩は他藩と一度も戦争をしたことがなく、この城も外敵の侵入に備えて作られたものだそうです。漁師たちは、中国人など渡来人が来ると代官所に届け出ていたといえます。離島の漁師たちは昔から、国防の最前線にいる。その方々に対して、燃料代や船などの特別支援があってもいい。

弱腰外交で中国が増長

山本 一昨年の尖閣問題を機に、中国は攻勢を強めてきています。二月

十二日にも中国の漁業監視船が尖閣付近の接続水域に入り、入りましたし、三月十六日には中国の国家海洋局の巡視船が接続水域内に入り、「魚釣島

を含むその他の島は中国の領土だ」などと言っている。沖縄・尖閣の周囲の小島に勝手に名前を付けるなどの行為も行っています。なぜいまって、強気な行動に出るようになったのでしょうか。

新藤 日本が政権交代をしたことで取り巻く環境が変わったともいえるでしょう。日中間の尖閣問題は七八年、鄧小平副首相が来日し「棚上げ」を申し出て以来、日本は律儀に三十年もその時の政治合意を守り続けてきました。

しかし、鄧小平氏の発言を詳しく読むと、実はこう述べているんです。「こういう問題は、一時棚上げにしてもかまわないと思います。十年棚上げにしてもかまいません。我々の、この世代の人間は知恵が足りません。この問題は話がまとまりません。次の世代は、きっと我々よりは賢く

なるでしょう。そのときは必ずや、

お互いに皆が受け容れられる良い方法を見つけることができるでしょう」

つまり、棚上げの期間は最大でも十年、と言っているんです。そして中国はこの三十年間に経済力、海軍力をつけ、さらなる海洋進出の願望を達成すべく、着々と力を蓄えています。一方、日本は「棚上げ」を理由に何もしてこなかったのです。

山本　ただ、日本人も尖閣事件をきっかけに、領土問題に関心を持つようにはなりました。これは私が国境の島に興味を持ち、取材をはじめた頃と比べれば、「意識」だけはかなり進展したのではないかと思うのです。

新藤　これまではあまり波風が立たなかったのですが日本人は関心がなかったけれど、中国が強硬な姿勢に出てきたので、「これはおかしい。そのま

ま受け容れるわけにはいかない」と関心を持ちはじめたのでしょうか。

なぜ、中国が強硬な姿勢を見せるようになったのか。私の推測では、日本が政権交代後、外交能力が落ち、領土や国家主権に対するスタンスが「弱腰」になったことで、中国、韓国、ロシアが「我々の主張どおり、領土をわが物にする最高のチャンス」と見て行動しはじめているのではないかと考えています。

山本　その機会を日本が与えてしまったわけですね。

「友愛の海」の愚

新藤　最初に動いたのは中国でした。○九年七月に衆議院が解散すると、中国は「共同出資」という政治合意を交わしていた東シナ海の「白樺」ガス田を単独で開発しはじめました。日本に「衆議院議員」がいない時

期を狙ったのではないのでしょうか。

空白期間を守る大臣が抗議すると一時はやめるのですが、数日経つと再開するという状況でした。

そして政権交代が起こり、鳩山政権が誕生しました。中国が政治合意を破り、ガス田工事を強行しているまさにその時、鳩山首相は九月の国連総会の際に胡锦涛主席と会談し、「ニコニコと笑って」「友愛の海にしましょう」と握手を交わした。ガス田のことなど一言も触れなかった。これを見て中国側は、「新政権は中国の行動を容認している」と受け取ったに違いありません。

その動きを見ていた韓国も一〇年二月に、竹島でのヘリポートと海洋科学基地の建設計画を相次いで発表、設計費の予算要求を行ったのです。これまでの自民党政権時代は政府として逐一抗議をしてきましたか